

今月のテーマ
熊本地震

田上市長の
ホッと
 ～自らの思いを皆さんに語るコラム～

熊本で地震が発生し、多くのかたがその犠牲となられました。「冥福をお祈りします。また、今も不安の中におられる被災者の皆さんに心からお見舞いを申し上げます。」

熊本地震は、私たちに多くの教訓を与えてくれます。

何よりも九州全体に「地震は大丈夫」という思い込みがあったのかもしれない。台風や集中豪雨に比べると地震の体験は少なく、備えが十分ではありませんでした。もちろん建物の耐震化は、以前に比べると格段に進んでおり、そのことが被害を少なくした面もあります。これらのことから、まだ足りていない備えを点検し、備えを急ぐ必要があります。

災害への備えには「**自助**」「**共助**」「**公助**」という考え方がとても大切です。

自助。今月の「広報ながさき」の特集や、全世帯にお配りした「長崎市生活便利ブック」なども参考にして、各家庭での備えをお願いします。

共助。地域のつながりがどれほど災害の時に大きな力を発揮するかは、私たちがこれまでの大きな災害で得た学び



の一つです。地域のつながりは、いざ災害が起きた時には、命さえも助ける大きな力になるのです。そして、それは毎日のあいさつや行事への参加など何気ない日ごろの取り組みの中で育まれます。

公助。災害対応の拠点となる長崎市役所も含めて、まだ完了していない建物の耐震化を急ぐ必要があります。今回の熊本地震では、避難所のあり方、救援物資の届け方、住宅の提供のしかたなど、多くの課題と教訓を学ぶことができます。長崎市役所から支援のために派遣された職員からも、さまざまな報告がありました。報告の一つひとつが大切な経験であり、次の備えへの大事な情報です。

地震発生からおおよそ1ヶ月後の5月11日に、沖縄県で九州市長会が開かれました。その中で提案したことがあります。

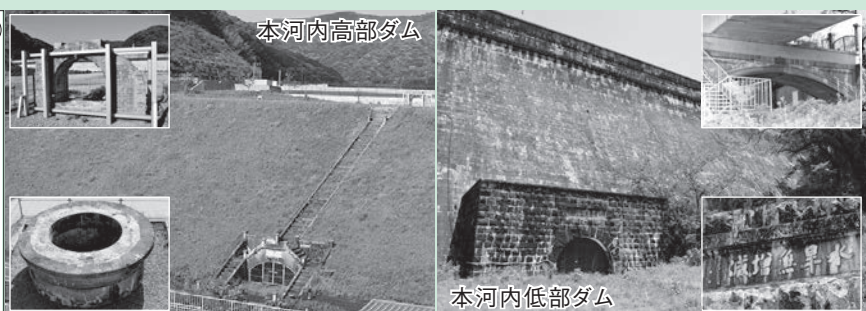
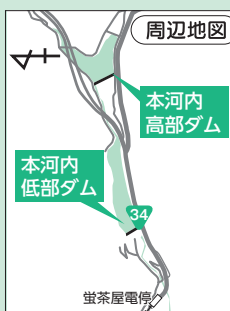
一つひとつの市にとってみると、大きな災害は数十年に一度であったり、災害の種類や大きさがその都度違っていたりし

て、災害対応の経験値をストックすることが難しい面があります。でも九州全体でみると、災害は毎年のように起きています。そこで災害発生の際に得られた経験値を九州全体で共有すれば、九州全体の災害対応力を向上させることができます。今回の熊本地震で得られた学びについても、課題の整理と共有のための活動をすることを提案しました。

実は、東日本大震災の後、同じ発想から九州市長会では防災担当者のネットワークをつくっていました。この仕組みは、熊本地震でも発生直後に必要な物資を届けるなど、特に初動段階で力を発揮しました。

私たちは、阪神淡路大震災で起きたことを中越地震に活かし、さらにそれを東日本大震災で活かし……と少しずつ災害対応力を高めてきました。隣の仲間である熊本をしっかりと支援し続けることと同時に、熊本地震に学ぶことで、つらく厳しい被災体験を決して無駄にしないことがとても大事だと思っています。

まもなく雨と台風季節がやってきます。



近代水道の歴史に触れる
本河内2つのダム

市街地の近くにある、歴史あるダムへ向かう。蛭茶屋電停から徒歩数分、住宅地を抜けると、日本で2番目に古いコンクリート造りの水道ダムである本河内低部ダムに着く。威厳すら感じさせる堤体に、直接触れることができる。放水路にかかる橋は日本初の鉄筋コンクリート橋で、隣接する国道34号線につながっている。

さらに上流、日本初の近代水道ダムである本河内高部ダムへ。芝に覆われた堤体と、導水トンネル入口からのびる階段が趣深い。奥には治水を担う新しい堤体があり、新旧堤体間は憩いの場として整備されている。れんが造りの導水トンネルと取水塔頂部の一部が展示され、間近に見ることが出来る。

☆今回は動画でもご紹介します↓

